

# 小国 英雄（おぐに・ひでお）

## 1、プロフィール

脚本家として、戦前は日活映画「あなたと呼ばば」や東宝映画「支那の夜」などを書き、戦後は黒沢明作品「七人の侍」「悪い奴ほどよく眠る」「天国と地獄」などに参加した。

<生没>

1904(明治 37)年7月9日 ~ 1996(平成8)年2月5日

<代表作>

映画「あなたと呼ばば」(脚本)「支那の夜」(原作・脚本)『シナリオ海賊船』『あの旗を撃て』

<青森との関わり>

八戸町(現八戸市)に生まれ、七戸小学校、長者小学校から県立八戸中学校へ入学、そこで、小説を書き始めた。

## 2、作家解説

明治 37 年7月9日、英雄は父小国庄治、母よしの長男として八戸町柏崎新町(現八戸市)に生まれた。父は七戸町に医院を開業しており、八戸は母の実家であった。幼年時代は七戸町で過ごしたが、8歳の時父が病没したため、七戸小学校から八戸の長者小学校に転入した。高等科を経て、県立八戸中学校へ進学した。八戸の祖母玉内たか女との会話は、その後の活躍に大きな影響を与えた。

4年の時、武者小路実篤の新しき村運動に共鳴し、九州の日向を訪れている。卒業後再び新しき村を訪ね、約2年間村の生活をする。向学心押さえがたく、武者小路のすすめもあり、横浜市にあったパプテスト神学校(現在の関東学院大学)に進学した。この頃には、小説家を志していて、大正 14 年に雑誌「山繭」に小説「ルパシカ」が発表された。

神学校卒業後、やがて日活映画太秦撮影所の監督部に入社した。はじめ助手を務めていたが脚本部に異動。このことが才能の開眼となった。山崎謙太とのシナリオコンビで「モダンマダム行状記」を皮切りに、喜劇もので活躍していった。昭和 11 年の「あなたと呼ばば」(脚本)は爆発的なヒットとなった。13 年に東宝に移籍し、15 年には「支那の夜」(原作・脚本)、19 年には『あの旗を撃て』を書き残した。

戦後に入り、21 年衣笠貞之助監督の「或る夜の殿様」を始め、山本嘉次郎、稲垣浩らの作品を書いた。そして、黒沢明監督の映画「七人の侍」「隠し砦の三悪人」「悪い奴ほどよく眠る」「天国と地獄」「赤ひげ」などに参加した。